

# 家読おすすめ本リスト

美濃加茂市立図書館・学校図書館

家庭で読み聞かせをしたり、家族いっしょに本を読んだりする(家読・うちどく)におすすめの本を、テーマ別に紹介しています。

家読の時間は、お子さんを本好きにするばかりではなく、家族の愛情をたっぷり感じさせてやれる豊かな時間となります。

このリストに紹介されている本は美濃加茂市立図書館や学校図書室(一部)にあります。ぜひ手にとって、家族で読みあってください。読書が家族みなさんにとってかけがえのない時間をもたらしてくれることを願っています。

## 【家読おすすめ本テーマ】

・ともだち ・家族 ・いのち ・食 ・平和 ・わかれ

## ともだち

書名	編著者名等	出版社	内容紹介
1 リスとアリとゾウ	デージー・ムラースコヴァー／作 関沢 明子／訳	BL出版	体の大きさが違って、好きなことが違ってもお互いが大切。リスのピンチを救ってくれたのはやっぱりアリとゾウでした。
2 いつだってともだち	エリック・バトゥー／絵 モニカ・バイツェ／文 那須田 淳／訳	講談社	大切なともだちとの別れの悲しみから抜け出せないとき、3つの大切なことを森のふくろうが教えてくれます。そのことは悲しみを元気に変えてくれました。
3 オオカミのともだち	きむら ゆういち／文 田島 征三／絵	借成社	一人が気楽で一番！と思っているオオカミの前にクマがあらわれます。一緒に行動するうちに…。これがともだちってやつ？
4 けんかのきもち	柴田 愛子／文 伊藤 秀男／絵	ポプラ社	いちばんのともだちと取っ組み合いのけんか。負けたくやしさを、先にあやまれた気持ち、ともだちのところに戻る勇気。涙のとまらない理由を感じてみよう
5 あのときすきになったよ	薫 くみこ／作 飯野 和好／絵	教育画劇	おしっこをもらす“しっこさん”私も心の中ではそう呼ぶ。でも私を本当に助けてくれたのは…。本物のともだちはすぐそばにいます。
6 ともだちや	内田 麟太郎／作 降矢 なな／絵	借成社	ある日、キツネはくともだちや>を始めることを思いつきました。1時間100円でともだちになってあげるのが、その結末は…。
7 泣いた赤おに	浜田 廣介／作 梶山 俊夫／絵	借成社	単なる友情の話ではなく、鬼同志の慈悲の心が、私たちに誠実に生きるとはということを問いかけてくれます。
8 ふくしまからきた子	松本 猛・松本 春野／作 松本 春野／絵	岩崎書店	原発事故の悲しみを抱え引っ越してきた“まや”の心に明かりを灯したのは、少年“だいじゅ”の優しく力強い気持ちでした。
9 たかこ	清水 真裕／文 青山 友美／絵	童心社	十二単におすべらかし、昔の言葉で話す「たかこ」がぼくのクラスに転校してきました。人ってみんな違っていいんだ、ということユーモラスに教えてくれます。
10 まつげの海のひこうせん	山下 明生／作 杉浦 範茂／絵	借成社	けんかに負けた「ぼく」が、涙の中に見えた飛行船で、憎い「あいつ」を負かします。「ぼく」の心象世界を描いた絵本。小学校低学年くらいの男の子におすすめします。

## 家族

書名	編著者名	出版社	内容紹介
1 おこだでませんように	くすのき しげのり／作 石井 聖岳／絵	小学館	「ぼくは、いつでもおこられる。家でも学校でも…。」いつも誤解されて損ばかりしている少年が、七夕さまの短冊に書いた願い事は…？

2	だいじょうぶ だいじょうぶ	いとう ひろし／作・絵	講談社	おじいちゃんをとおして子どもの心の成長が描かれています。「だいじょうぶ だいじょうぶ」そう声を掛け合えたらいいですね。
3	おじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃんのおじいちゃん	長谷川 義史／作	BL出版	「おじいちゃんのおとうさんはどんなひと？」男の子の素朴な疑問から、家族やいのちの不思議に思わず感動しちゃいます。
4	おかあさんがおかあさんになった日	長野 ヒデ子／作	童心社	それは、あなたが生まれた日のこと。この絵本をきっかけに、あなたの物語をお話してほしい。
5	おとうさんがおとうさんになた日	長野 ヒデ子／作	童心社	『おかあさんがおかあさんになった日』を読んだら、「お父さんはいつお父さんになったの？」と子どもの質問。聞きたいでしょ。我が家の物語もぜひしてください。
6	ぼくのしんせき	青山 友美／作・絵	岩崎書店	ひいおじいちゃんの米寿祝いの写真で初めてみた大勢の人。みんなぼくにつながる親戚なんだって！我が家でもたどってみたいくなりますよ。
7	おやおやじゆくへようこそ	浜田 桂子／作	ポプラ社	親の絵本というより、親子向けの絵本です。子どもと一緒に答えを見つけていくと、親子がもっともっと仲良くなれますよ。
8	おかあさんとわるいキツネ	イチノロブ・ガンバートル／文 サンスマー・ポロスマー／絵 つだ のりこ／訳	福音館書店	モンゴルの北の森には、赤ちゃんをねらう悪いキツネがいます。知恵を使って、それを防ごうとするお母さんのお話。こどもを思うお母さんの思いは、どこの国でもいっしょです。
9	しげちゃん	室井 滋／作 長谷川 義史／絵	金の星社	私は男の子みたいな名前「しげる」がきらい。お母さんに名前を変えてと言ってみた。親の愛情が詰まったお話です。
10	ねこのなまえ	いとう ひろし／作	徳間書店	名前がないってどんなことでしょう…名前はだれかに願いを込めてつけてもらうものです。のらねこに名前をつけてほしいと頼まれたさっちゃんは考えました。

## いのち

	書名	編著者名	出版社	内容紹介
1	絵ときゾウの時間とネズミの時間	本川 達雄／文 あべ 弘士／絵	福音館書店	動物の個体の大きさと食料の差の関係は？動物の個体による寿命の違いは？数学的な考えから導かれた命の時間とは。
2	100万回生きたねこ	佐野 洋子／絵・文	講談社	そのねこは、誰かのねことして100万回も生き返りました。自分のことが大好きだったこのねこは、心から愛するものに出会ったとき命を全うしたのでした。
3	いのちをいただく	内田 美智子／文 諸江 和美／絵	西日本新聞社	食肉加工センターに勤務する坂本さんの仕事と、仕事についての親子の語り。命を「殺して」食べていることを改めて考えさせられる一冊です。
4	いのちのおはなし	日野原 重明／文 村上 康成／絵	講談社	95歳の日野原先生と10歳の4年2組のこどもたち。年の差85歳の先生から子どもたちへの命の授業で教えられる「いのち」とは…。

## 食

	書名	編著者名	出版社	内容紹介
1	りんごのおじさん	竹下 文子／作 鈴木 まもる／絵	ハッピーオウル社	不可能といわれた無農薬のりんご栽培に、たったひとりで挑戦したおじさんの物語。りんご農家・木村秋則さんをモデルにした絵本です。
2	干し柿	西村 豊／写真・文	あかね書房	昔の人の知恵が詰まった干し柿作りが写真で紹介されています。美濃加茂市の特産の「堂上蜂屋柿」を知るために参考になる絵本です。
3	野菜とくだものアルファベット図鑑	ロイス・エイラト／絵・文 木原 悦子／訳	あすなろ書房	AppleアップルからZucchiniズッキーニまで、ページをめくるたびに色鮮やかな野菜や果物が満載。家族で盛り上がること間違いなし！
4	きょうのごはん	加藤 休ミ／作	偕成社	家族でいただく豊かな食卓。それぞれの家庭の味と、食事風景に家族の物語を発見。
5	ぎょうざつくったの	きむら よしお／作	福音館書店	お母さんの留守にともだちを呼んで、ウナちゃんはぎょうざ作りで大奮闘。子どもたちのパワー溢れる絵本。ぎょうざを作りたくなります。

6	おばあちゃんのおせち	野村 たかあき／作・絵	校成出版社	日本のお正月伝承料理。郷土によってそえられる料理、名前に違いがありますが、食べ物に祈りを込めていただく日本の食文化は伝えていきたいですね。
7	田んぼの一年	向田 智也／作	小学館	1年をとおして、稲の生長や田んぼにいる生物が描かれています。親子で豊かな日本の四季にふれてみませんか。
8	しょうたとなっとう	星川 ひろ子 星川 治雄／写真・文	ポプラ社	納豆がきらいなしょうた。おじいちゃんは、大豆を育て、納豆にするところまでを手伝わせてくれます。日本食に欠かせない大豆のことを教えてくれる写真絵本です。
9	ぬーくぬく	飯野 和好／作 山本 孝／絵	農山漁村文化協会	秋の日、大根とさつまいもはぬくぬく干されながら、お互いにおいしさ自慢をしています。姿を変えてどんなおいしいものになっていくのでしょうか。
10	やさいばたけははなばたけ	広野 多珂子／作・絵	佼成出版社	「おばあちゃん、このはな、なんていうの？」だいこんの花、ごぼうの花、野菜の花をいくつ知っているかな？大発見の楽しい一冊。
11	ラーシアのみずくみ	安井 清子／文 砂山 恵美子／絵	こぐま社	水道が当たり前の日本ではわからない世界の事情があります。水汲みは子どもたちの仕事です。ラーシアの生活に、一杯の水の大切さを感じます。

## 平和

	書名	作	出版社	内容紹介
1	おとうさんのちず	ユリ・シュルヴィッツ／作 さくま ゆみこ／訳	あすなろ書房	戦争で母国を逃れ、貧しくひもじい時代を語る自伝絵本。父はパンではなく地図を買ってきた。地図はまだ知らない世界に旅立たせてくれたのでした。
2	ひろしまのピカ	丸木 俊／文・絵	小峰書店	いずれ戦争・ピカドン(原爆)の話を体験者から聞けなくなります。語り継ぎ、平和を考えるために大切にしたい絵本です。
3	チロヌップのきつね	たかはし ひろゆき／文・絵	金の星社	夏の時期だけ、漁のために人が入る小さな北の島にも、戦争の影が忍びます。きつねの親子は人間によって、いたずらに命を引き裂かれます。
4	ペドロの作文	アントニオ・スカルメタ／文 アルフォンソ・ルアーノ／絵 宇野 和美／訳	アリス館	軍事独裁政権は、反対派弾圧の取り調べに子どもたちに目をつけた。不安な日々を過ごす中で、機転を利かせて家族を救った少年の物語です。
5	土のふえ	今西 祐行／作 沢田 としき／絵	岩崎書店	偵察中に会った敵対する二人の若い兵隊は、故郷を思いながら作った土笛を奏でたことで、歩み寄ることができました。人は何のために争っているのかと問いかけてくれる絵本です。
6	オット 戦火をくぐったティディベア	トミー・ウンゲラー／作 鏡 哲生／訳	評論社	戦争によって数奇な運命をたどったティディベアのオットー。出会い、別れ、そしてめぐり合い…様々な想いがこの絵本に込められています。
7	ぼくがラーメンたべてるとき	長谷川 義史／作・絵	教育画劇	ぼくがラーメンたべてるとき、そんな同じ時に遠くの国では男の子が戦争にたおれている。平和への願いが詰まった一冊です。
8	せかいでいちばんつよい国	デビット・マッキー／作 なかがわちひろ／訳	光村教育図書	大きな国の大統領は、いろんな国を征服していきます。ところが、最後の小さな国には兵隊がないので、戦争ができません。つよい国ってなんでしょう。
9	さがしています	アーサー・ピナード／作 岡倉 禎志／写真	童心社	広島原爆遺物が語る持ち主たちの8月6日。普通の人たちが確かに生きていたのです。
10	へいわってどうなこと？	浜田 桂子／作	童心社	平和ってどんなこと？あたりまえの事があたりまえにできる事、人とつながる事。平和の尊さをシンプルな言葉で伝えてくれます。
11	はらっぱ	神戸 光男／構成・文 西村 繁男／画	童心社	戦前、戦中、戦後60年に渡って、同じ「はらっぱ」の移り変わりを描いています。空襲によって一面焼け野原になってしまう場面があります。親子で戦争と平和について語り合うきっかけとなる絵本です。
12	くつがいく	和歌山 静子／作	童心社	足音をそろえ、海をわたり、靴たちが勇ましく出かけたところは戦場。人々をふみにじり最後にはぼろぼろになってしまった靴。わたしの未来に戦争はいらない。
13	ピートのスケートレース 第二次世界大戦下のオランダで	ルイーゼ・ボーデン／作 ニキ・ダリー／絵 ふなと よし子／訳	福音館書店	ドイツ占領下のオランダで、身の危険がせまった姉弟を助けるため、命を懸けて挑んだ少年ピートの勇気とスケートにまつわる物語です。
14	いわたくんちのおばあちゃん	天野 夏美／作 はまの ゆか／絵	主婦の友社	1枚の家族写真のエピソードが、原爆が落とされて、家族の大切な毎日が一瞬にして奪われてしまったあの日のことを、静かに教えてくれます。

# わかれ

書名	作	出版社	内容紹介
1 おじいちゃんのごらくごらく	西本 鶏介／作 長谷川 義史／絵	すずき出版	ぼくは、おじいちゃんが好き。おじいちゃんが残してくれた魔法の言葉をつぶやくと、いつだってぼくは幸せだよ。
2 わすれられないおくりもの	スーザン・バーレイ／作・絵 小川仁央／訳	評論社	ともだちの素晴しさ、生きるための知恵や工夫を伝えあっていくことの大切さを語り、心あたまる感動を残す絵本です。
3 ふたばあちゃん	マーガレット・ワイルド／文 ロン・ブルックス／絵 今村 葦子／訳	あすなろ書房	ふたばあちゃんは孫に生きること愛することを生活の中で伝えました。そして最後の日、孫はみとりを経験するのでした。
4 くまとやまねこ	湯本 香樹実／文 酒井 駒子／絵	河出書房新社	悲しみから立ち上がるには自分で悲しみを受け止められるようになること。子どもたちに向けて優しく「死」と「生」を伝えてくれます。